

18/9/21 名古屋市議会本会議（名古屋市民オンブズマンによる自動文字起こしアプリによる文字起こし）

渡辺義郎（自民）：久々に登壇させていただきました。

暫くの間お付き合いをよろしくお願い申し上げます。

坂野議長にお許しをいただきましたので、中部国際空港の 2 本目滑走路の整備及びアクセスの充実並びにこれに対応した組織体制について質問をいたします。

中部国際空港は、ご案内のとおり、平成 17 年 2 月の開港以来、14 年目を迎え、国際拠点空港として当地域はもとより、我が国全体の航空需要の発展に一翼を担い、また世界有数の名古屋のものの作りを支えるゲートウェイとして、そして、我が国の経済を牽引する中部地域の重要な社会のインフラだとして、国内外の交流に大きく貢献してきたことは周知のとおりでございます。

中部国際空港の旅客数の推移を見ますと、平成 29 年度は前年度比 5%増の 1153 万人に上り、今年度は開港以来最高となる 1300 万人が見込まれています。

旅客数はこれまで平成 17 年度の開港時の万博の 1235 万人が最高でしたが、今年度は万博を超える見込みで、これは景気回復に伴いビジネス観光の利用が増えていることに加えて、外国人訪日観光客の増加で、新規路線の開設や増便が続いていることが掲げられます。

アジアの国々からの訪日客は急増したほか、格安航空会社、すなわち、LCC の就航を追い風に、平成 23 年度からは増加傾向が続いています。

国の方では、訪日外国人旅行者を 2020 年に 4000 万人という目標を考慮しており、その大きな流れを受けて中部国際空港ではボーイング社などと協力し、10 月にフライトオブドリームスをオープンすることや、5 月から始まった新 LCC ターミナルの本格整備など、一層の機能強化が進められております。

私は、平成 28 年 12 月に設立をされました名古屋市会中部国際空港拡充議員連盟の会長として、51 名の議員の皆さんと愛知県・岐阜県・三重県のそれぞれの各議員連盟と強力な連携をとりながら、2 本目滑走路の事業化に向けて、霞ヶ関の省庁や国会議員の方々などに要望活動を毎年行うなど、当地域の一層の発展のために鋭意努力をいたしてまいりました。

去る 7 月 3 日も東海三県一市議会中部国際空港拡充議員連盟と 2 本目滑走路建設促進期成同盟会合同の要望活動に名古屋市議員連盟会長として私は同盟会会長の大村愛知県知事、副会長のここにお見えになります我が河村名古屋市長とともに上京をいたしました。

国土交通省の石井啓一大臣や自由民主党の本部において、二階幹事長等にお会いし、2 本目滑走路の重要性に向けてしっかりとお願いをしてまいりました。

愛知県知事からは浚渫土砂処分場を将来的に空港として利用するとの発言があり、一部新聞報道がありましたが、石井大臣からは、地元と同じ方向でやっていきたいとのことのお答えをいただき、以前までの大臣の例年の見解と比べると格段の達成感を感じた次第であります。当地域では 2026 年の第 20 回アジア競技大会の開催が決まるなど、世界に向けて躍動する

機会が増大する中、2本目滑走路の建設については2027年のリニア中央新幹線の全線開業に合わせて完成することを国に要望しているところでございます。

リニア中央新幹線の開業より形成されるスーパーメガリージョンの中心を名古屋市が担い、世界最強最先端のものづくりを基軸にグローバルに物・人・金・情報が対流する拠点となって世界をリードしていくためには、中部国際空港の果たすべき役割が今後さらに重要になることは必定であります。

我が国の成長エンジンの一翼として社会経済活動のグローバルな交流を支えていくためにも、さらなる空港間競争に勝ち抜いていくためにも、中部国際空港の2本目滑走路の整備の必要性は明らかであります。

また、安全面の部分でも、去る7月の16日には4本も滑走路を持つ羽田空港で一つの滑走路の舗装が剥がれて穴が空き、修繕工事のため4時間閉鎖になり6便欠航というトラブルがありました。

また、福岡空港でも同月の22日に滑走路の路面の一部が剥がれていることが見つかり、1時間にわたって、全便の運航が止まりました。原因は落雷のためとみられています。

そうして、つい先日皆様方もご承知のように、9月4日には台風21号の高潮のため関西空港にタンカーが連絡橋に衝突をし、孤立したことは記憶に新しいところであります。

羽田空港の滑走路は4本目が整備され、関西国際空港はすでに2本目があるという状況下で、このように多大な影響を及ぼしております。

もし、滑走路が1本しかない中部国際空港は同じような状況に陥ったら緊急時に当地域の交通インフラがマヒすることは必至であるわけであります。

さらに今回、私は、愛知県での組織体制について愛知県県議会議員連盟の岩村会長に聞いてまいりました。

愛知県では、空港対策課において、22名でやっておられることがわかりました。

名古屋市における組織体制は観光文化交流局の課長以下2名であります。

この体制で一体大事業がですね、できるのかと、この組織体制は何だと。

全くやる気があるのかという、そういう気持ちで怒りで私はいっぱいあります。

大名古屋市であるにも関わらず、何たることかと私は実は愕然としたわけであります。

名古屋市は今年度から中部国際空港二本目滑走路の建設に向けた国などへの要望活動、さらに来年度には2本目滑走路の建設に係る市内外を問わず、中部地域の自治体や経済界との間の調整だとかが予測される中、中部地域の悲願である。2本目滑走路建設をスムーズに、かつ、この名古屋市に利点があるように進めるためには、そもそも2名でやっていけるのかと疑問を持たずにいられません。

今後はさらなる総合的な組織体制や新規の予算確保などが求められると考えますが、いかがでしょうか。

全庁的に組織体系を統括する山本総務局長にその考えと対応についてまずは伺います。

さらに今回、2本目滑走路の機能強化と組織体制につきまして、現体制のままでいいのか。

組織体制の必要性に関して観光文化交流局を所管する広沢副市長に伺います。

また愛知県知事は名古屋港で発注する浚渫土砂の新たな処分場といたしまして、土地をできるだけ早急に、2本目の滑走路にしたいという思いがあると発言をされました。

現在名古屋港内に大規模な埋め立て地がないため、ポートアイランドに浚渫土砂を借置きしている状況です。

この事業化へのタイミングに合わせて鉄道インフラと西知多道路整備を初めとする道路ネットワークを含めたインフラ面の強化を図るためあおなみ線の中部国際空港への延伸をもう一度真剣に考えるべきであります。

将来の航空需要動向などを考慮しながら、空港へのアクセス充実を図るため、道路インフラや他の沿線への影響等について今一度調査を行い、愛知県や名古屋港管理組合を初めとする関係自治体など調整や検討を行うことは重要な課題であると考えます。

平成17年2月の中部国際空港の開港に前後して、これまで何度も議論にはなりましたが、私も今回、質問するに当たりまして、去る平成9年3月に当時の愛知県が事務局として音頭を取り、名古屋市も参画した中部新国際空港推進調整会議において策定されました方針を何度も読み返しました。

そして将来の航空需要の動向等を勘案しつつ西名古屋港線を延伸し、新空港へいたる鉄道についてその整備に向け検討を進めるとの文言をですれども何度も読み返したわけでありまして。名古屋市民の利便性の向上に向けて金城ふ頭からあおなみ線に関しての延伸についてルートの方策や採算性、利用促進の観点、道路事業化に関する進捗などから交通アクセスの強化における課題の整理及び検討ができるのは、今、まさにこのとき、このチャンスとこのタイミングしか私はないと確信いたしております。

そこであおなみ線金城ふ頭から中部国際空港への延伸の可能性に関して、はっきりとした調査検討と、31年度の早々に調査検討できる組織をたち上げられないかにつきまして、広沢副市長に思いを込めてお伺いし、これで第1回目の質問を終わります。

広沢副市長：中部国際空港の2本目滑走路をはじめとする機能強化及び組織体制、そして交通アクセスの強化についてお尋ねをいただきました。

近年増加する訪日外国人への対応、そして当地域の重要な社会インフラに関する代替機能としての国土強靱化の観点からも2本目滑走路は必要と考えております。

現在、名古屋市、愛知県、岐阜県、三重県、地域経済団体、中部国際空港を会員とする中部国際空港2本目滑走路建設促進期成同盟会において、国に要望活動を実施しております。

また、今年の要望の際に会長である愛知県知事より現在名古屋港しゅんせつ土砂処理処分場と候補地として進められている中部国際空港沖の浚渫土砂処分地を将来的に空港用地として利用したいとの発言がございました。

本市といたしましても、議員ご指摘の2本目滑走路をはじめとした機能強化の早期実現に向けて関係者と共に事業化に向けた検討について具体的に推進してまいりたいと存じます。

ならびに今後の調整を加速させていくべく、愛知県の体制などと足並みを揃えつつ、しかるべき体制を整えていくべく、十分に調整をしてみたいと存じます。

続きまして、交通アクセスの強化についてでございます。

今後、空港の機能が十分に発揮されるためには、道路と鉄道両面からのアクセス機能の強化の検討も必要であると考えております。

現在、道路に関しましては、空港への主要なアクセスとして知多半島道路があり、さらに、新たなアクセスとして西知多道路の事業が着手されている一方、鉄道につきましては、名鉄常滑線が空港に乗り入れているのみの状況でございます。

新たな鉄道アクセスといたしましては、平成 9 年 3 月に公表されたアクセス整備、方策案の中で、「将来の航空需要の動向等を勘案しつつ、西名古屋港線の延伸の検討を進める」と位置づけがされているところでございます。

現時点では想定需要をはじめ事業そのものの具体的な全体像は示されておりませんが、開港前と同様に、関係者が揃って事業の全体像と枠組みを整理していくことが重要であると考えております。

これらを受け、空港機能の強化のあり方とアクセス機能の充実について調査検討を進めていくことが必要と考えております。

今後あおなみ線の延伸については、31 年度早々に調査検討ができる組織が立ち上がるよう、積極的に県をはじめ関係者に働きかけてまいります。

以上でございます。

山本総務局長：総務局には中部国際空港の 2 本目滑走路の実現及び体制強化に関し、組織を所管する総務局の考えについてお尋ねをいただきました。

地方自治法におきまして、地方公共団体は常にその組織及び運営の合理化に努めるものとされております。おります。

組織の編成に当たりましては、その事務事業の運営が簡素かつ効率的なものになるよう、十分配慮しなければならないとされております。

一方で、新たな行政需要や課題に的確に対応するためには必要な組織体制の整備を図っていくことも重要であると考えております。

ご質問のございました中部国際空港の 2 本目滑走路をはじめとする機能強化につきましては、本市の国際化、広域的機能を強化し、国の中枢機能の分担に適切に対応するためにも重要な施策であると認識しているところでございます。

したがって、総務局といたしましては、空港を所管する観光文化交流局等の関係局における検討状況や、愛知県などの関係者との関係者の状況を踏まえ、必要な調整を図りつつ、組織体制についてしっかりと検討してみたいと考えております。

以上でございます。

渡辺芳郎（自民）：広沢副市長、特にあおなみ線の延伸につきまして、時期を得た前向きな答弁ありがとうございました。

ぜひ、31年度早々に調査検討ができる組織の立ち上げを確実に実現してください。

それで、それを実現するためには、何といたっても名古屋市としての組織体系が必要であります。今一度、組織体制を所管する立場から、堀場副市長に、本市における今後の組織体系をどのように考え来年度にむけての増強や局を移管するなどという見通しにつきまして、そのご所見を、この際お伺いいたします。

堀場副市長：市の体制強化に向けた考え方についてお尋ねをいただきました。

本市は日本の経済観光交流の一大熱源となって大きな対流を起こし、世界から選ばれ、尊敬される、世界に冠たる名古屋を目指すこととし、名古屋市、次期総合計画中間案におきましてもその方針を掲げさせていただいております。

このような方向性においてリニア中央新幹線の全線開業によって本市は7000万人規模の世界最大の都市圏スーパーメガリージョン中心となり、世界の玄関口として中部国際空港は、より一層重要性が高まることから、世界の中での名古屋の地位向上を目指す上では中部国際空港の機能強化と本市からのアクセスの充実は重要な課題であると認識しております。

こうした認識のもとで、行政組織は、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズに迅速かつ的確に対応すべきものであると考えておりました。庁内において空港を所管いたします観光文化交流局等の関係局で精力的に議論を進めるとともに、愛知県などの関係者の状況を踏まえ、必要な体制についてしっかりと検討し、平成31年度から所管局の変更を含め、組織体制の強化を図ってまいりたいと考えておりますので、いるところでございます。

以上でございます。

渡辺義郎（自民）：堀場副市長、ご答弁ありがとうございました。

平成31年度から所管局の変更も含めて組織体制の強化を図るとの答弁、まことに前向きな本市の組織体制についての御答弁ありがとうございました。

ぜひ未来の名古屋の発展のために歴史的な一歩を踏み出すため、現在の所管の局を変更することを含め、組織体制の強化を必ずはかってください。よろしくお願いをいたします。

そこでこの際、市長にお伺いいたします。

今、両副市長さんならびに総務局長さんから大変前向きなご答弁をいただきました。

最後に、本市最高責任者である河村市長さん。

名古屋市の体制強化及びアクセスの充実、特にあおなみ線の延伸につきまして、熱烈な決意のほどお願い申し上げます。

河村市長：あおなみ線の延伸につきましては、あれはもともと作ったときに、あれは下へ沈めていく計画があつてちょっと控えて作つたらしいんだよね、まあまあそりゃ多分経費

ですけど。

とにかく愛知県だけで製造品出荷額 47 兆と、三重と岐阜入れますとだいたい 60 兆超えるというこの辺の地域の実力ってほとんど知られておりませんが、今はなんとなく東京が自分で稼いで使っておられないと思ってるひが多いんですけど、圧倒的なまあ力です。だけど半分だいたい自動車ということでこの自動車がどういうふう to 今度転換していくかというどえらい重要な時点にあるということでございますので、この地域の産業力を絶対落としたらいかん。ということで、二本目滑走路もそうだけど、名古屋からこのセントレアへのアクセスをちゃんとしてくということはどうえらい重要で、僕からすればはよ市内経由すればええがやと言ってるんだけど、やっぱり組織がいまるところちょっとしつかりしとらんということを言っておりますので、まあ今両副市長が言いましたように来年度の初めにはもう間に合わせると新しい組織がね。それで、初めは常識的に言うと市内っていうことなと思いますけど。そんなことで必ずそういうスケジュールでやってくと、この地域の産業力を落とさない上に極めて重要であるというふうに思っております。

渡辺義郎（自民）：もう時間があと 1 分ぐらいしかありませんので、市長さん、ですね、まことにご答弁いただきまして、決意をしていただきましてありがとうございます。

私どもは今後当地域の発展のために名古屋市会中部国際空港拡充議員連盟の会長として 51 名議員が参加いたしておりますので、愛知県や、岐阜県や三重県の東海 3 県の各議会の中中部国際空港拡充議員連盟と深く連携をしながら頑張って汗をかいてまいります。

今回の質問に当たりまして、今、私の思いを申し上げつつ、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。